



生ごみ処理システム対応
ディスポーザー
YD200BW
シリーズ

施工説明書

一部の指定地域を除き、ディスポーザー単独での使用はできません。

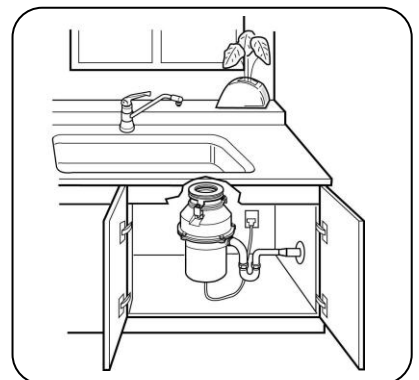
専用合併浄化槽や生ごみ排水対応下水処理槽との併用でのみ使用できます。

本書による施工方法以外の不適切な施工で事故および故障が生じた場合、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

はじめに(施工される方へ)

施工前に配線・配管工事の内容についてお客様と必ず打合せをおこなってください。

施工完了後、必ず試運転をおこない、不具合がないことを確認してください。



手順 安全に施工いただくために

1 安全上のご注意

必ずお守りください

据付工事前に必ずよく読んでうえで、正しくお使いください。

ここでは人身事故や家財の損害を未然に防止するために必ずお守りいただく内容を説明しています。

誤った施工をしたときに生じる危険や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはならない「禁止」内容です。




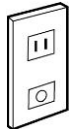




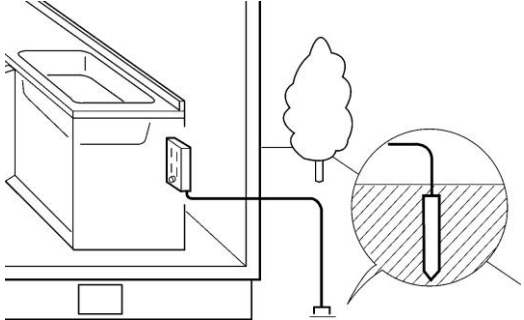

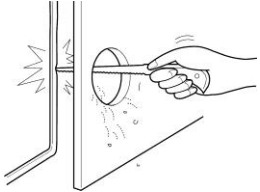

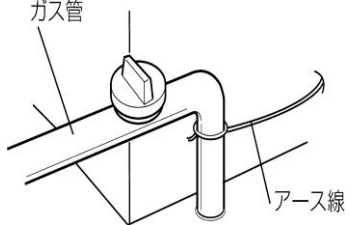



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

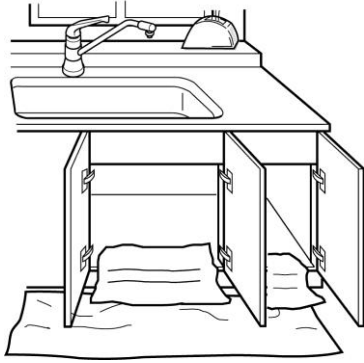
1 安全上のご注意

警告

| | | | |
|---|--|---|--|
|  | <p>定格15A・交流100Vの専用回路を単独で使用してください。</p> <p>他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。</p>  <p>定格15A・交流100V</p> |  | <p>電気工事・配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従い、安全、確実におこなってください。</p> <p>誤った電気工事・配線工事は感電や火災の原因になります。</p> |
|  | <p>設備・配管工事は、現場の設置図および施工説明書に従い、必ず付属の部品を使って確実におこなってください。</p> <p>強度不足や取付けが不完全な場合は、本体の落下などによるケガの原因や、火災・感電・水漏れなどの原因になります。</p> |  | <p>設置工事は、設置専門業者または指定業者がおこなってください。</p> <p>誤った設置工事や移設工事は、火災・感電・水漏れの原因になります。</p> |
|  | <p>アース線は必ず接地してください。</p> <p>※D種接地(対地間 100Ω以下)を行い、工事後、接地抵抗計にて確認してください。</p> <p>アース線を接続しないと、万一の故障や漏電のとき感電の原因になります。 (アース線の取付けは、法律で義務付けられています。) アース工事は、電気設備技術基準に基づいて電気工事士の方がおこなってください。</p> |  | |
|  | <p>設置・配線工事の際の壁への穴あけ、電源ケーブルの固定は、屋内配線・屋内配管を傷つけないようにしてください。</p>  <p>漏電・感電・火災の原因になります。</p> |  | <p>アース線はガス管、水道管、避雷針、電話線には絶対に接続しないでください。</p>  <p>爆発・感電の原因になります。</p> |
|  | <p>設置終了後は、設置・配線工事が確実にできているか確認してください。</p> <p>設置が不完全な場合は、本体の落下などによるケガや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。</p> |  | <p>電源ケーブル類をステーブルなどで固定しないでください。固定は市販のケーブル固定具をお使いください。</p>  <p>電源ケーブル類が破損して、ショートし感電・火災の原因になります。</p> |

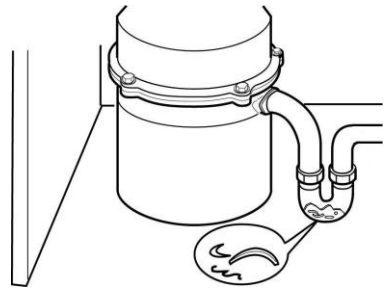
⚠ 注意

施工の際は、床に毛布などを敷いてください。



毛布などを敷いていないと床にキズが入り、補償問題になることがあります。

施工の際に、排出管内に布きれ、配管くずなどを残さないでください。



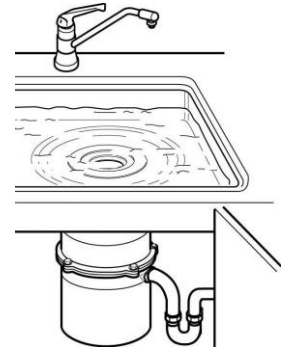
排出管内に布きれ、配管くずなどがあると、配管内が詰まり、水漏れの原因になります。

シンクに、60°C以上の湯を続けて流さないでください。



配管部品の変形や劣化が発生し、水漏れの原因になります。

シンクに水をためているときは、絶対に運転しないでください。

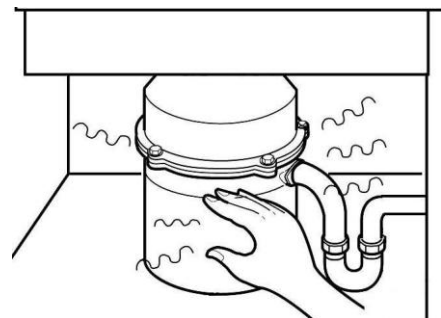


本体やシンクが大きく振動し、本体が落ちてケガをしたり流し台内部の破損・水漏れの原因になります。

電源コード・ケーブル類は、給湯管などの高熱になるものに近づけないでください。

電源コード・ケーブル類が加熱され破損し、火災・感電の原因になります。

運転した後は、モーターに直接手を触れないでください。



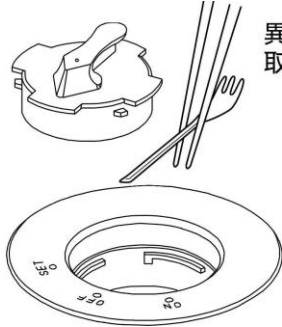
運転直後は高温になっているため、やけどの原因になります。

ディスポーザーを運転するときは、必ず水を流してください。

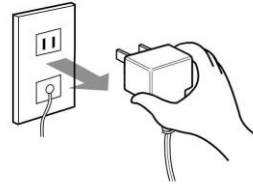
水を流さずに運転すると、ハンマーとターンテーブルの接触によるキズが大きくなり、騒音や振動が大きくなる原因になります。

⚠ 注意

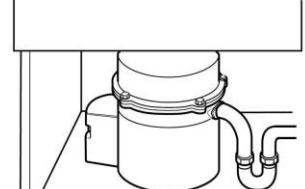
異物を取り除くときは、あらかじめコンセントから電源プラグを抜いて運転が止まっていることを確認してからおこなってください。



異物を取り除く前に



① 電源プラグを抜く



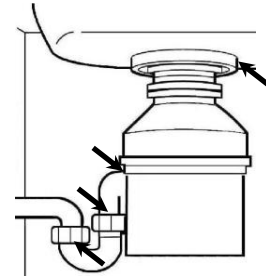
② 運転していないのを確認

粉碎部内のハンマーなどで、手にけがをする原因になります。



通水後は、各部の水漏れ確認を必ずおこなってください。

水が漏れると、周囲が氷びたしになり、大きな補償問題になることがあります。



施工後は、金属片やタイル片などをきれいに取り除いてください。
また、施工後の金属片やタイル片などはディスポーザーで処理しないでください。

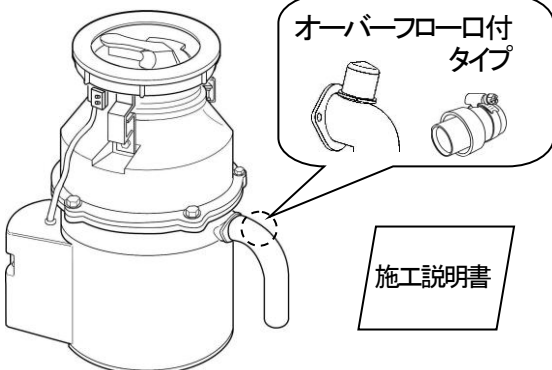
破損の原因になります。

手順

2 部材一覧 (そろっているかご確認ください。)

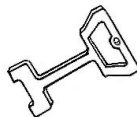
※お客様の仕様により、付属品は別梱包や付属していない場合があります。

本体

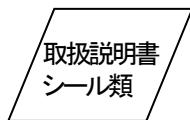


付属品

噛みこみ解除工具



取扱説明書
シール類



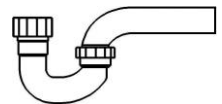
アミ皿



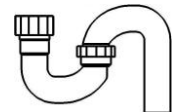
オプション

PTラップまたはSTラップ

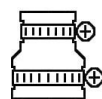
PTラップ



STラップ

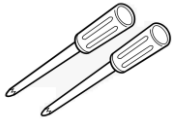


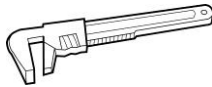
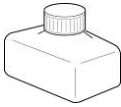


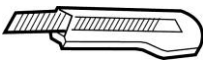
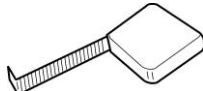


ゴムジョイント



3 施工の前の確認

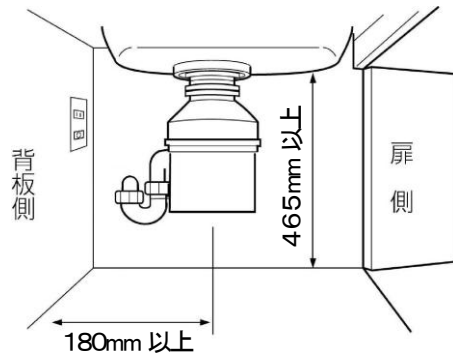
工具の確認(施工には次の工具が必要です。)※付属品ではありません。

| | | | | |
|--|---|--|--|---|
| +、-ドライバー  | ウェス、毛布など  | 塩ビ用ノコ  | モーターレンチ  | 塩ビ用接着剤  |
| ロックナット締付け工具  | スパナー(10mm)  | カッター  | スケール  | |

設置位置の事前確認

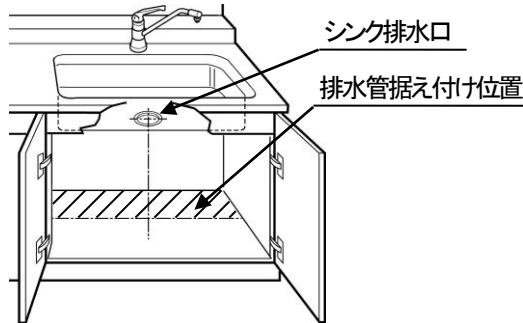
取付けスペースの確認

本体(Φ200×h327mm)設置スペースに加え配管スペースが必要となります。
 シンク下部に右図のようなスペースを確保できることを確認してください。



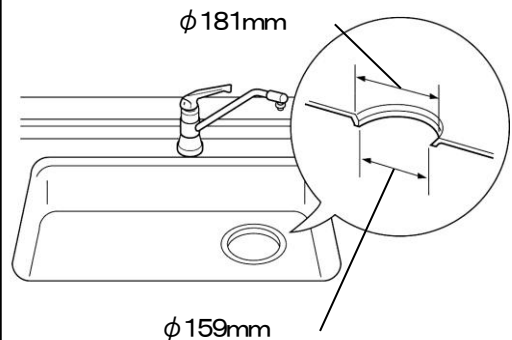
排水管の取付け確認

排水管はシンク排水口より奥側の位置(キャビネット内)に取付けてください。(ディスポーザーと排水管の位置関係は、手順6参照)
 ※取付け位置はお客様と事前に打ち合わせをしてください。



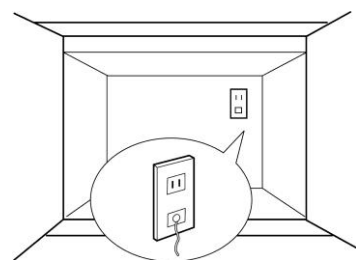
取付けるシンク排水口の確認

取付け可能なシンク排水口形状は下図の通りです。



電源およびアースの確認

電源はAC100V、15A以上が必要です。
 本品を設置するシンク用ベースキャビネット内に、アース端子付コンセントを設け、これに電源電線・アース線を配線できる計画と準備をしてください。
 (手順6参照)
 ※取付け位置はお客様と事前に打ち合わせをしてください。

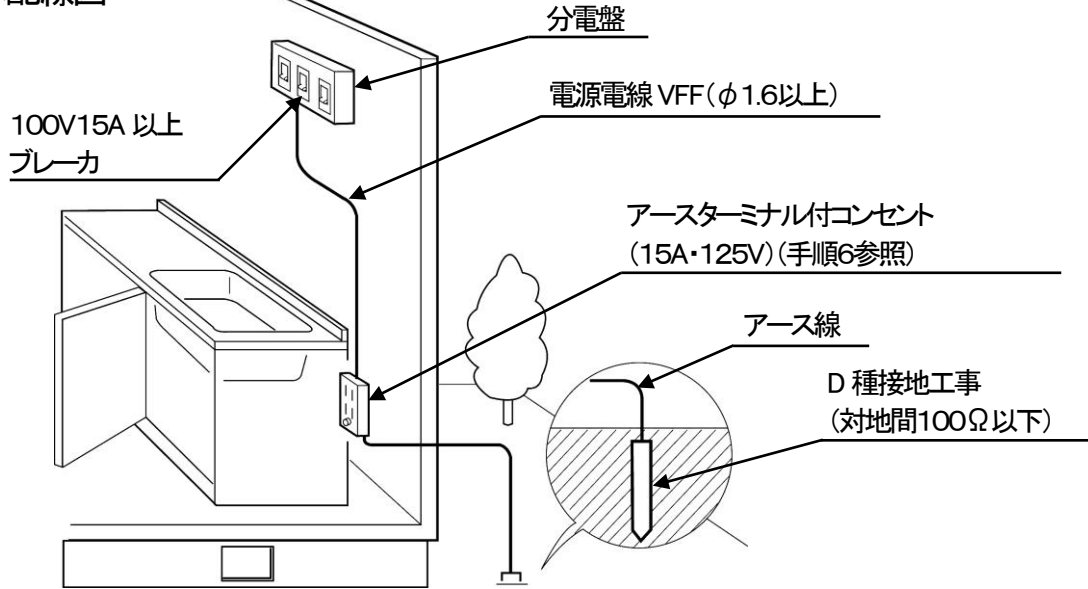


手順

3 施工の前の確認

基本配線の事前確認

●基本配線図



手順

4 排水口の確認

●ディスポーザーの排水エルボと流し台の排水管をストラップまたはPトラップを介して接続する計画と準備をしてください。(手順6参照)

※配水管の位置が床の場合はストラップ、側面の場合はPトラップとなります。

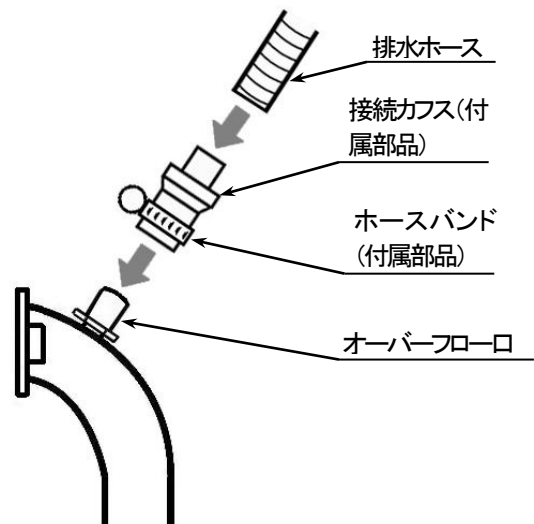
手順

5 オーバーフロー口の^{ぐち}接続方法

接続方法

※オーバーフロー口付の場合は、右図の通りです。

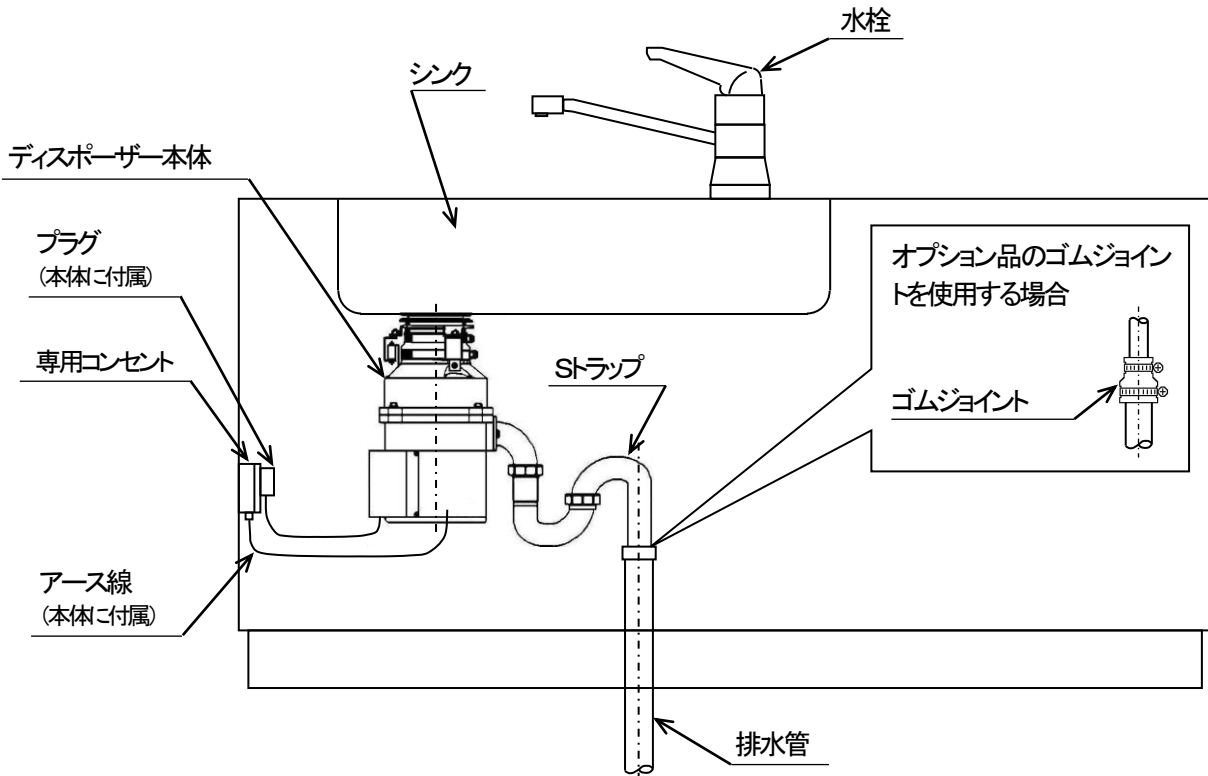
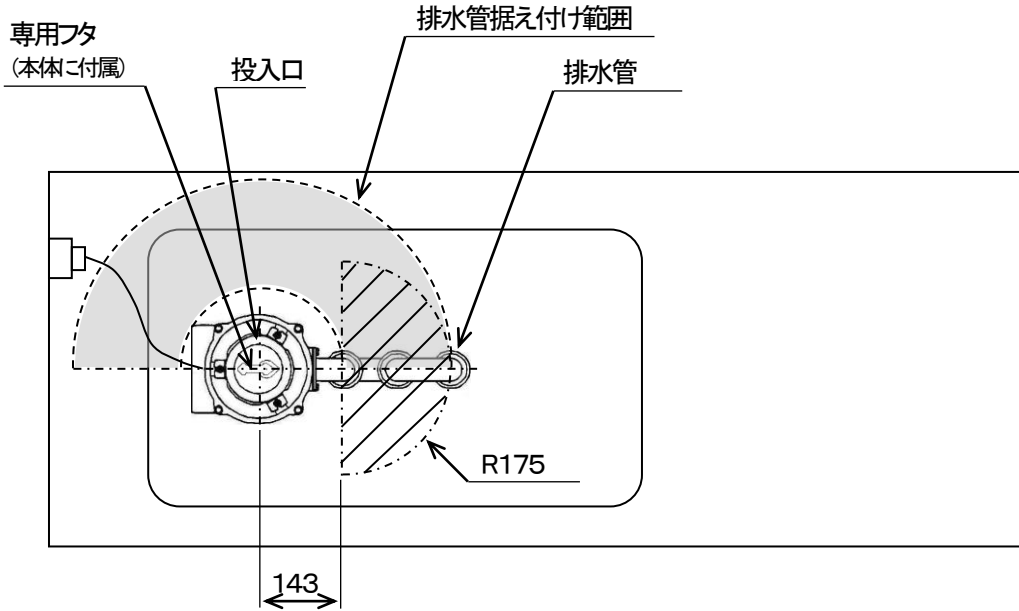
- ① 使用時はオーバーフロー口内にあるキャップ(栓)を先の尖った物で引っ掛けて抜き取ってください。
- ② 内径25mmの排水ホースと付属部品を使用して右図のように接続してください。
排水ホースは必要に応じてニツヅなどで切ってください。
(排水ホースと接続カフスは塩ビ用接着剤で接着してください。)
- ③ 接続後、水漏れを確認してください。



6 施工概要図

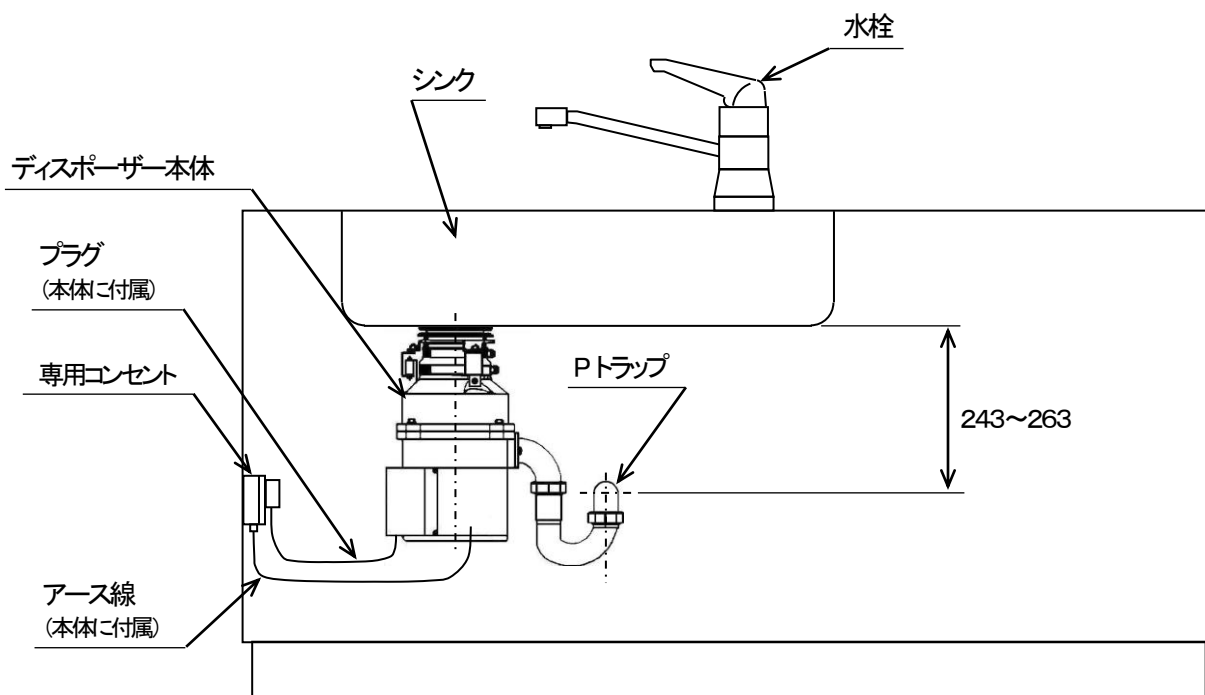
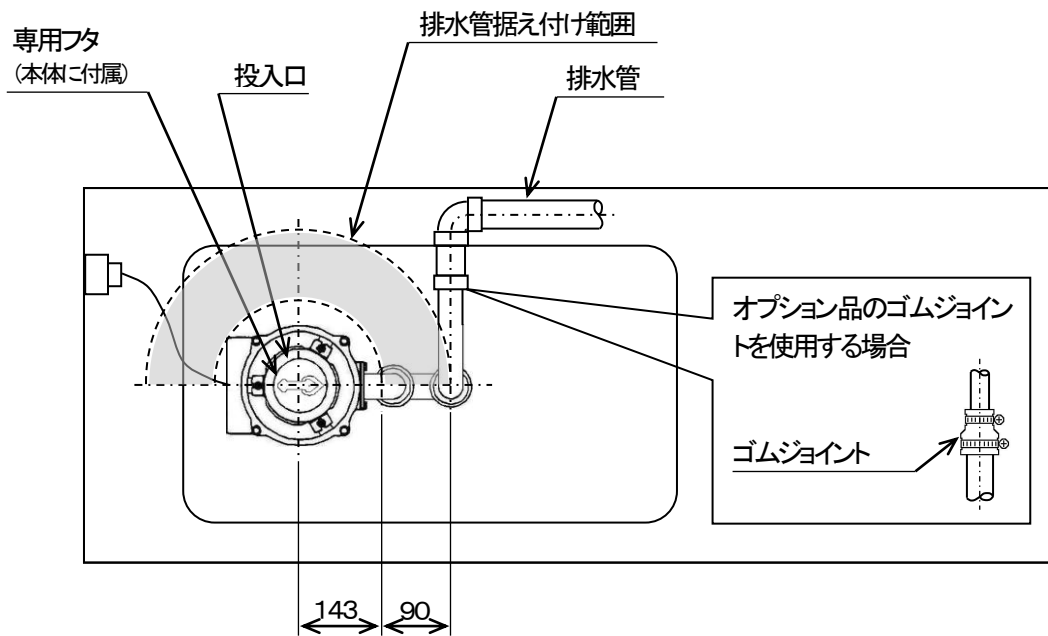
Sトラップ型(トラップ取付け例)

●配線工事は電気工事士による



Pトラップ型(トラップ取付け例)

●配線工事は電気工事士による




7 本体の取付け・固定

1. シンクフランジの取外し

- ① リードスイッチのファスナーを引っ張り、
リードスイッチと本体を分離する。
(クリップも外す。)
- ② ブラケットの上側ボルト(M5)3ヶ所をゆるめて外す。
- ③ 上側締付バンドをゆるめる。
- ④ ブラケットを外側に広げてシンクフランジAYをゴムブーツから外す。
- ⑤ ロックナットをゆるめて外す。

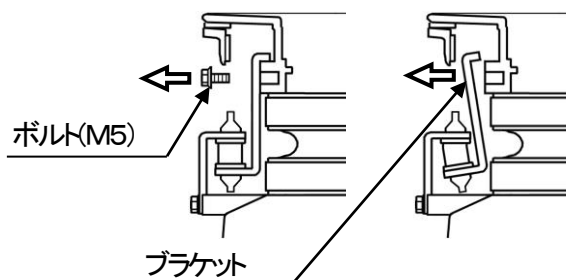
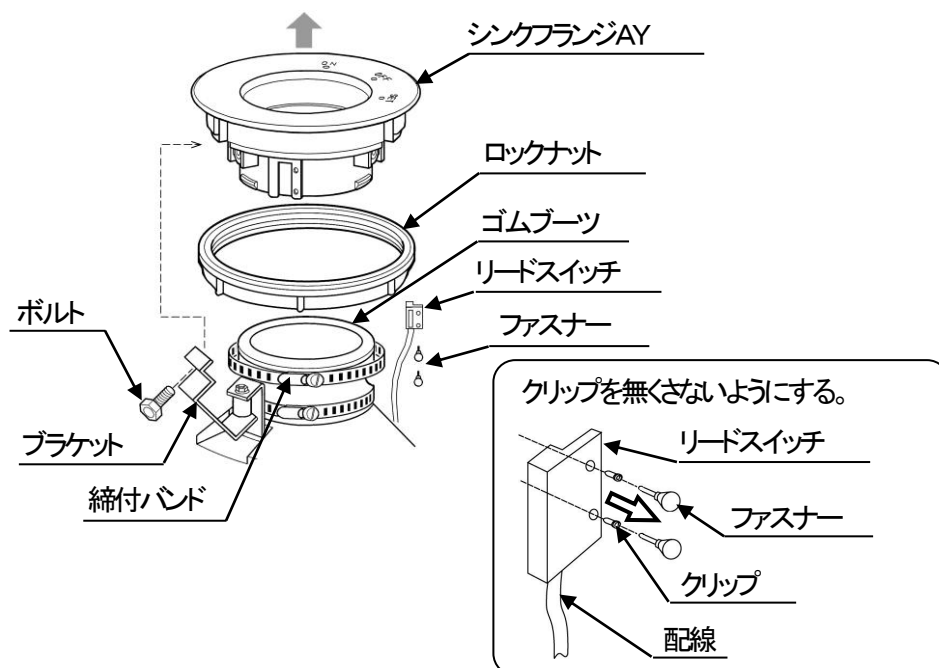
※分解した部品はなくさないようにしてください。


注意

⊘

リードスイッチを無理に引っ張ったり、配線を無理に折り曲げないでください。

リードスイッチ部に外力が加えられるとスイッチ内部が破損して、機能なくなります。



2.シンクフランジの取付け

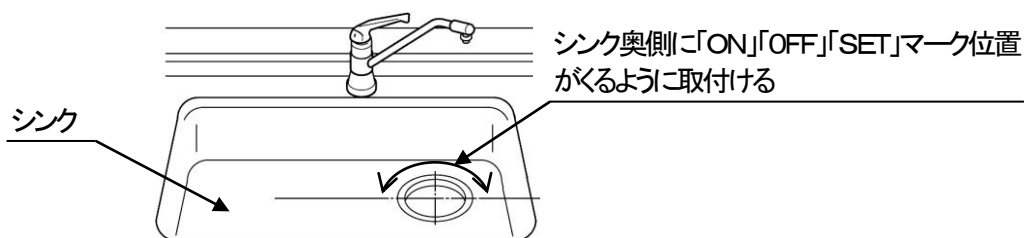
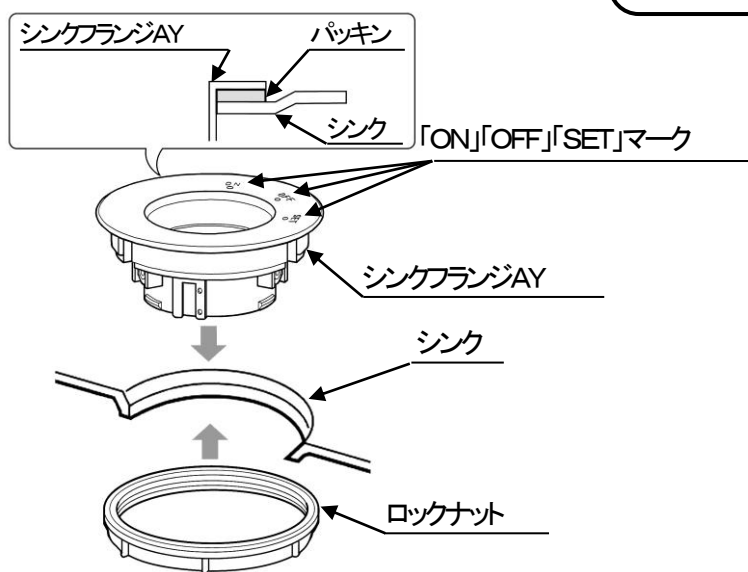
- ①シンク排水口にシンクフランジAYを挿入する。
- ②シンクフランジの「ON」・「OFF」・「SET」マーク位置がディスポーザー取付け口の中心よりシンク奥側になるように取付けてください。
- ③ロックナットを仮締めする。
(シンク裏側より)

⚠ 注意



パッキンが変形やねじれた状態になっていないことを確認してください。

水漏れの原因になります。



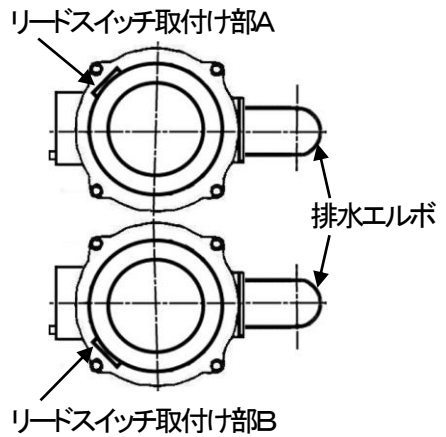
3.本体の取付け

①配水管の方向に排水エルボ(本体)を向けた時、右図のようにリードスイッチ取付け部A・Bどちらかの位置になるように本体の向きを合せてください。

(排水エルボを排水管寄りの方向に合せてください。)

②シンク排水口の真下に本体がくるように置き、本体をジャッキで押し上げ、シンクフランジAYIにはめ込む。

※ゴムブーツの内側に水をつけるとはめ込みやすくなります。



排水エルボとリードスイッチ取付け部の関係

注意



リードスイッチ取付け部にゴムブーツが当たらないように取付けてください。

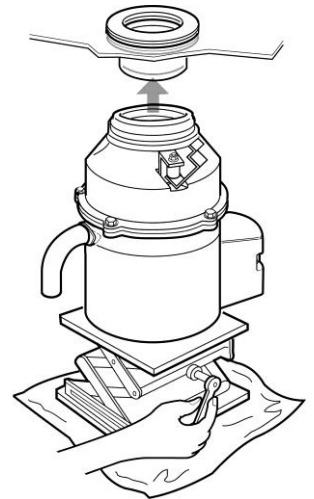
ゴムブーツが金属部に当たるとブーツ(ゴム)の損傷・水漏れの原因となります。



禁止

本体取付けの際にゴムブーツの内側に油や石鹼水をつけないでください。

油や石鹼水を使用すると、運転中に本体が落下し、けがや流し台内部の破損・水漏れの原因となります。



③ブラケット(3個)の上側部分を取付け部に引っ掛ける。

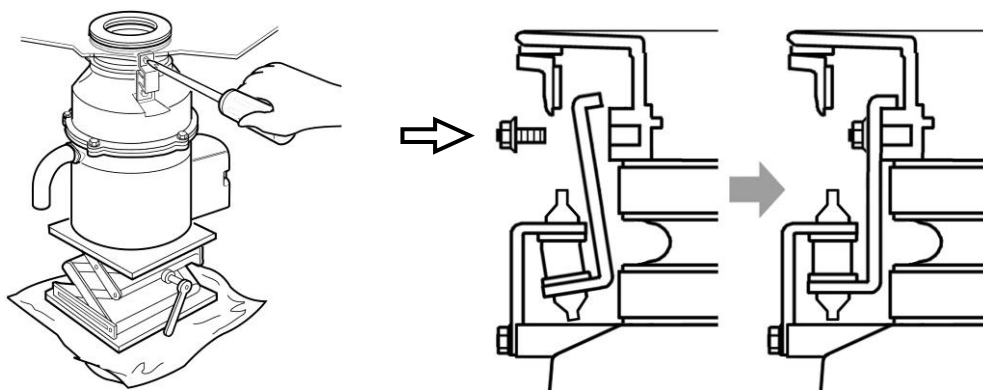
④ブラケット(3個)をガイドに合わせて挿入する。

※ブラケットがガイドに合わない場合は本体の向きを調整して合せてください。

⑤ブラケット(3個)の上側の六角ボルト(M5)を固くなるまで締めてください。

※防振ゴムが斜めになっている場合は再度本体の向きを調整してください。

防振ゴムが変形したまま固定されると振動・騒音の原因になったり、損傷・劣化の原因となります。

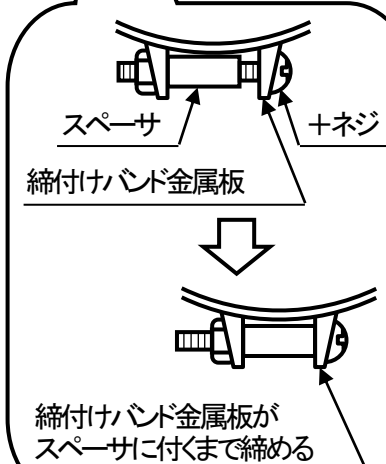
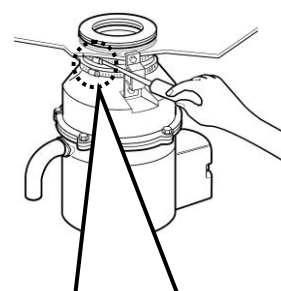
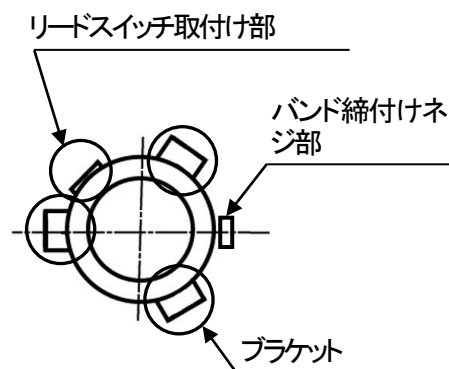


⑥締付けバンドのネジ部がリードスイッチ取付け部とブラケットに接触しないように締付けバンドを回転させて位置を調整し、右図のように締付けバンド金属板がスペーサに付くまで+ネジを締め付けてください。

⑦配水管の向きに合わせて本体の方向を調整してください。
(ロックナットをゆるめると方向の調整がしやすくなります。)

※シンクフランジAYの「ON」「OFF」「SET」マークがシンク奥側にあることを確認してください。

⑧シンクフランジAYのロックナットをロックナット締付け工具にて本締めしてください。



注意



締付けバンドのネジ部が、リードスイッチ取付け部とブラケットに干渉していないことを確認してください。

リードスイッチの破損や騒音・振動の原因になります。

注意



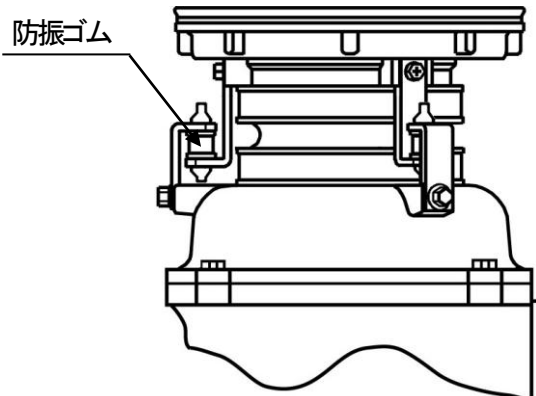
締付けバンド金属板がスペーサに付くまで締め付けてください。

水漏れの原因になります。

⑨ジャッキを外してください。

ジャッキを外した時に、防振ゴムが斜めになっていないことを確認してください。

(防振ゴムが斜めになっている場合は再度ブラケットの位置を調整してください。)



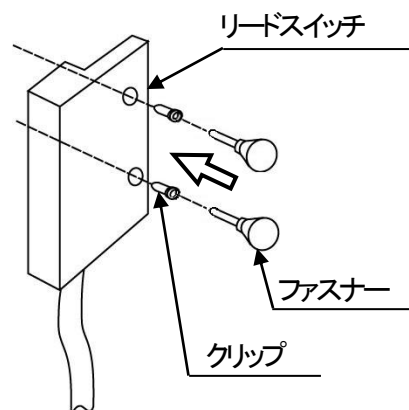
注意



ブラケットの上側(M5)ボルトを確実に締め付けてください。

本体が落下し、けがや流し台内部の破損・水漏れの原因になります。

- ⑩リードスイッチをプレートの取付け板に組み合わせた状態でクリップ(2個)をはめ込んでください。
(クリップがプレートの取付け板に確実に挿入されていることを確認してください。)
- ⑪ファスナー(2個)をクリップにはめ込んでください。



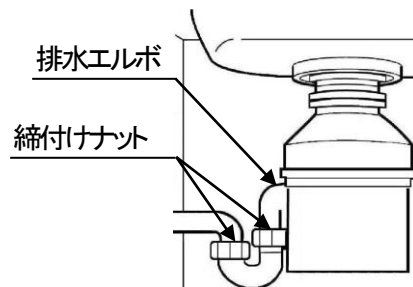
4.トラップの取付け

- ①SトラップまたはPトラップを本体が傾かないようにトラップを調整しながら排水エルボと配水管に合うように仮接続します。
- ②仮接続終了後、トラップの締付けナットを確実に締め付けてください。
(オプション品等使用により、トラップと配水管の接続方法が異なる場合がありますので、手順6施工概要図を参考に接続してください。)

注意



接続部は確実に締め付けてください。
水漏れの原因となります。



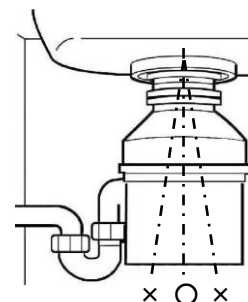
- ③本体が斜めに傾いていないことを確認してください。

※本体がトラップで押されていたり、引っ張られたりすると本体が斜めに傾いた状態になります。その場合は、本体の傾きがなくなるように再度トラップの調整をしてください。

注意



本体が斜めに傾いていないことを確認してください。
本体が斜めに傾いて取付けされていると振動・騒音の原因になったり、トラップ・排水管の損傷・劣化の原因となります。



これで取り付けが完了しました。

8 試運転

1 工事を確認する

- 電源工事、接地工事が完了しているか。
- 本体がシンクに正しく取付けられているか。
(容易に回転しないよう、締め付けられているか。)
- 排水管が正しく取付けられ、各部に緩みがないか。

2 粉碎室内を確認する(生ごみを貯めるところ)

- 異物(ネジ・配線くず・木くず等)が混入していないことを確認してください。
※異物が混入している場合は、手袋を着用して異物を取り除いてください。
(異物を取り除く作業のときは電源が切れていることを確認してください。)



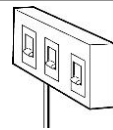
注意

施工時に出たゴミ(ネジ・配線くず・木くず等)が粉碎室内に入っていると、運転時に異音や嘔みこみ停止等の原因となります。

3 分電盤のブレーカを「ON」にする

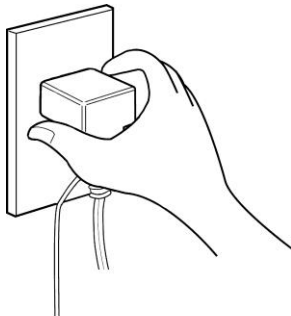


- フタが外れていることを確認してからブレーカをONにしてください。



4 電源プラグを差し込む

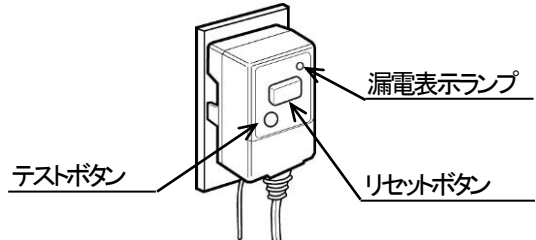
- プラグを確実に奥まで差し込む。



(漏電保護プラグ付の場合)

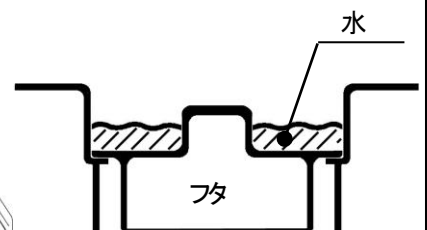
差し込み後、運転保護スイッチの漏電表示ランプが点灯していないことを確認してください。

(テストボタンを押して動作を確認ください。)



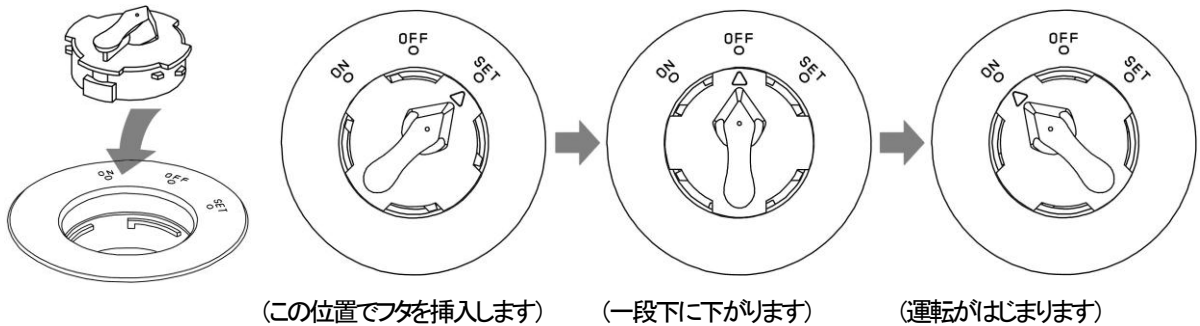
5 水を流す

- 水栓を開き毎分約8リットルの給水を行なってください。
(水量の目安はフタをON位置にして右図のようにフタの表面に水が溜まるぐらいです。)



6

投入口にフタをする



●投入口のフランジのSET位置にフタを挿入し、OFF位置からON位置の順に回転させてください。(ディスポージャーが作動します。)

●次のことを確認してください。

- ①始動時に“カチツ”と金属音がした後、正常に運転し、運転中に異常音、異常振動がないか。
- ②始動後、約1分で自動停止するか。

※運転音や振動が大きい場合、次のことを確認してください。

- ①コ型ブラケットの上側(M5)ボルトが確実に締め付けられているか、防振ゴムが斜めに取付いていないかを確認してください。
- ②排水管に無理な力がかかったり、排水管と流し台の床板・壁板等が干渉していないか確認してください。

7

フタをOFF位置⇒SET位置に合わせた後、水を止めてください

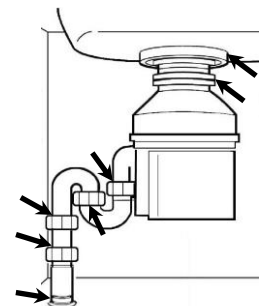
※OFF位置でフタを引き上げながらSET位置まで回してください。

8

接続部からの漏水確認

●接続部分が水で漏れていないことを確認してください。

- ①ロックナットのゆるみ・ガタがないか。
- ②パッキンにねじれ等がないか。
- ③ゴムブーツがシンクフランジAYIにしっかりはまっているか。
- ④ゴムブーツが締付バンドにしっかり締め付けられているか。
- ⑤トラップ・排水管等のゆるみがないか。



9

破損・傷の確認

●フタ・シンクフランジ・本体・トラップ等に破損・傷がないことを確認してください。

